滋賀県教育振興基本計画策定委員会　第１回会議　議事概要

Ⅰ　日　時

平成２０年６月１３日（金）１３：３０－１６：４５

Ⅱ　場　所

滋賀県公館 ゲストルーム

Ⅲ　出席者

出席委員：秋山元秀委員、山中康裕委員、谷口久美子委員、宇野一枝委員、
辻　淳夫委員、荻田久籌委員、小巻おさみ委員、森岡優子委員、
細川英子委員、文室淑美委員、髙田利江子委員、寺村銀一郎委員、
宇野正信委員、山田義和委員、北村美栄子委員、藤丸厚史委員
（欠席委員：吉見靜子委員、岩﨑洋子委員、護法良憲委員）
教委関係者：末松教育長、福井教育次長、寺田教育次長、西村管理監、
北村学校教育課長、関生涯学習課長
事 務 局：梅村教育総務課長、中村教育企画室長、猪田教育総務課企画員、
（教育総務課）　高木教育企画室長補佐、笹山主査(教育企画室)、吉田主任主事(教育企画室)

傍　　聴：５名

Ⅳ　内　容

開　会

１　委員の委嘱について

各委員に委嘱状渡し。任期は平成２０年６月１３日から平成２１年６月１２日までの１年間。

２　あいさつ

末松史彦教育長からあいさつ

３　会議の公開等について

事務局より「滋賀県教育振興基本計画策定委員会会議 公開方針（案）」および「傍聴要領（案）」について資料に基づき説明の後、公開方針（案）および傍聴要領（案）について、原案どおり異議なく承認された。

４　自己紹介・活動紹介

各委員から順に自己紹介および活動の紹介を行った。

５　委員長の選出・副委員長の指名について

設置要綱第４条に基づき、委員長の選出、副委員長の指名が行われた。

委員全員一致で秋山委員を委員長に選出した後、秋山委員長が谷口委員を副委員長に指名した。

６　諮問について

末松教育長が秋山委員長に諮問文を手交。

－　休憩　14:16～14:30　－

７　【説明】政府の計画（案）の概要と滋賀県教育振興基本計画策定の手順について

事務局より政府の計画（案）の概要と滋賀県教育振興基本計画の策定の手順について資料に基づき説明。

８　【意見交換】教育をめぐる現状・課題について

事務局より現在の滋賀県の施策について、「平成２０年度教育行政重点施策」に基づき説明した後、委員間で「教育をめぐる現状・課題」について意見交換。

【主な意見】

計画の策定について

◎　滋賀県らしい計画にしなければいけない。中央教育審議会の答申をそのまま滋賀県に置き換えて作ったのでは意味がない。

◎　滋賀県が固有に抱えている問題を全体の中にどう位置づけていくのか、滋賀県らしさをどのように我々が理解していくのかが課題。

◎　滋賀県がもつ特性、母なる湖・琵琶湖、滋賀の自然環境が大きなツールになる。

◎　本委員会の任期は１年間だが、目標到達度を測ったり、改善したりということを考えると、任期を５年にすべき。

◎　この策定委員会は計画を策定することが使命。できあがった計画の進行管理をどういう形でやるかは今後検討。策定された計画を監視するのは議会の役割でもある。

◎　問題が余りにも大きすぎ、広すぎる。これをどう具体化していくか、どういうところに焦点を絞っていくか。

◎　この１年間で膨大なことを本当にできるのかと不安に思っている。

子どもを取りまく環境について

◎　秋葉原事件のような事件が起こるのは、情報革命によって人間の意識構造が変わってしまったから。家庭でパソコンが使われるようになった時期と重なる。

◎　社会の変化が子どもたちにどう影響しているか、今後策定委員会で考えていくべき。

「生きる力」について

◎　人間力、社会力、文化力を高めていくことが、社会規範を確立することにつながる。

◎　人間形成への意図的な営みを、個としての人間形成、他者との関係における人間形成、社会の中での人間形成と仕分けすると、

個としての人間形成……基本的な礼儀を身につけること。
他者との関係における人間形成……「聞く、話す、読む、書く」ということ。
社会の中での人間形成……ふるさと教育の実践。

◎　校外学習などで、安易にバスを使わずに、歩かせたらいい。そうすると途中でつらくてもみんなが歩いているからついて行こうとがんばるだろう。

◎　「生きる力」は、学ぶ「意欲」だと思う。努力することが苦にならない、何とかして頑張ろうという意欲。コツコツした努力は、小学校の低学年のうちから大事。

◎　自主的な部分も協同的な部分も集団生活の中で発揮されなければならない。

◎　やりなさいと指示されてやっているだけでは駄目。
◎　「生きる力」は、自分が問題に気づいて、「どうしたらいいかなー」と考える力。そういう主体的な動きが今の子どもは弱くなっている。
◎　「生きる力」は、まず自分で作って食べること。中学三年生までに自分で献立をたてて、料理して、食べるということが全部できるように。あと、しゃべる力と判断する力の３つの力をはぐくむことが「生きる力」を育てることになる。
◎　「寝る」も「生きる力」だ。
◎　高校で付ける「生きる力」は、技術能力を常に自分で更新できるようにすることである。子どもたちが生きていく上で何らかのプラスになるように指導しなければならない。
◎　「必然性がないと学ばない」ということだ。子どもたちにいかに必然性を感じさせるかが大事。必要だと思ったら学ぶはず。
◎　子どもたち自身の自己肯定感、つまり自分は生きていていいんだ、このままでいいんだ、あなたはあなたのままでＯＫだよということを、しっかり根底のところで実感できている子どもたちがどれだけいるのか。自己肯定感をどう育てるのか、しつけとか教育とかありますが、私は私でいいというしっかりしたものをどこで培っていくのかが大事だ。
◎　遊びの中では子どもたちは昔と変わっていない。創造性をどんどん発揮し、下の子の面倒もちゃんと見られて、集中力も持続力もある。地域や家庭の生活の中で培ってきた力が、学力と結びついていくはず。どのように子どもたちに時間と場所を確保させるかが課題。

子どもたちの（自然）体験について

◎　子どもがキレるのは、自然との接触がキレているということ。見る自然でなく、自然に触れる、体験することを計画に盛り込むべき。
◎　滋賀県は豊かな自然を持つが、体に刻み込まれるような体験を子どもたちがどれだけしているかとなると、むしろ少ないというデータもある。
◎　フローティングスクールだけで自然が分かる訳ではない。体験学習がいいのか悪いのかという評価もこの１０年ほど受けてない。自然体験に関して滋賀県独自の方法論を考えるべきである。
◎　自然と親しむといいながら、保護者は施設の整備を求めたりしている。
◎　幼稚園では、体丸ごとで体験することが大事。また、親に返していくことを意識して、親子でスタートから一緒に積み上げていくように働きかけている。
◎　田舎に住んでいる子どもたちでさえ、自然体験ができていない。
◎　農村部・山村部でも学校で体験学習をしなければならないのでは、学校が大変だ。

総合的な学習の時間について

◎　小学校の総合的学習の時間は、有意義に使われている。中学校はなかなか難しいのでは？
◎　中学校の５日間職場体験は、総合的学習の時間があるからこそできる。あの実地体験は中学生にとってすごく大事で、コミュニケーション能力が伸びる子もいる。

日本語教育について

◎　人間力、社会力、文化力の根源は、美しい日本語にある。
◎　国委託事業の小学校での英語教育は絶対しなくてはいけないのか。英語力より美しい日本語を身につける方が先決。

◎　企業が最終的に求めるのは、「コミュニケーション能力」で、学校生活の中でも、お互いのコミュニケーション能力が低いために、うまくいっていないということが多々ある。「話す 聞く」をもっと学校教育に取り入れてほしい。

関係者の連携について

◎　学校、地域、家庭さらに企業の４者の相互連携が特に大きな視点となる。
◎　学校を中心としながら、学校と連携をしながら、地域も家庭もすべてが教育についての施策を計画的に進めていけるような計画を策定しなければならない。

親の関わりについて

◎　大事と思ってもらえるよう、親の意識にどう届かせるかが課題だ。
◎　教科指導以外にいろんなことをやりたいと思っても、それを保護者にどのように理解していただくか、特に私学は悩んでいる。

教員の資質向上について

◎　教育の成果は、教員の資質に左右される。教員の資質を向上させるには、集合研修より、子どもと向き合って子どもから学んでいく、現場で学ぶ、場数を踏む、これが大事。現場で分からないこと、苦労したことをどう自分で解決するのか、という資質を向上すべきで、無駄な研修にお金や時間をかけている場合ではない。
◎　研修は必要。初任者研修は絶対必要で、３年研、６年研、１０年研とまめにやらないと意味がない。
◎　先生の研修は非常に大事。私学はその点どうしたらいいんだろうかというのが悩み。
◎　研修をつまらないと感じるのは、教師が必然性を感じていないから、大事なことを教えてもらっているにもかかわらず、くみ取れていない。与えられた中から、何を学び取るのかは、教師の課題だ。
◎　大学の教職課程で手話を教えるとか、特別支援教育に興味のある人は即戦力になるよう先に学べるようにしてはどうか。
◎　特別支援に関して勉強したり、特別支援の免許を取ろうという学生は以前に比べてものすごく増えている。
◎　大学で学んでも、使わないと忘れてしまう。
◎　今の先生は学力、知識はあっても、体験が少なく、防衛体力、精神的な力がついていないように思う。
◎　文部科学省の統計を見ても、精神的な問題で休んでいる先生がどんどん増えている。

教員の配置について

◎　先生方は、熱意があっても専門性がなかったりということがある。特別支援教育の専門性の高い先生を異動させるのはやめてほしい。
◎　保護者としては、即戦力を求める。
◎　最初からできないのは当たり前で、どんな専門性もできないところから作っていくもの。初めてだからできないということではない。

９　その他

閉　会